

2018年度大学入試センター試験 解説〈倫理,政治・経済〉

第1問 現代社会・青年期分野

問1 正解は①。

- ① 誤文。ハヴィガーストは、「親の価値観を内面化すること」ではなく、逆に親から心理的に独立することを、青年期の課題としている。
- ② 正文。ハヴィガーストは、青年期の発達課題として、親からの心理的独立のほかに以下のようなものを挙げている。
- ・職業の選択
 - ・他者との洗練された人間関係
 - ・経済的な自立
 - ・結婚と家庭生活の準備
 - ・価値観や世界観の確立
- ③④ 正文。オルポートは、成熟した人格の特徴として、以下の様なものを挙げている。
- ・自己を客観視できること
 - ・自分なりの人生哲学をもつこと
 - ・ユーモアの感覚をもつこと
 - ・社会的領域への自己意識の拡大
 - ・情緒的に安定していること

問2 正解は⑦。

ア 「人道主義」の立場から労働者の環境改善を図ったのは、空想的社会主義のオーウェンである。オーウェンは経営者として実際の労働環境を改善し、アメリカで理想的な共同体建設を試みた。エンゲルスはマルクスとともに「科学的」見地から資本主義の転換を訴えた社会主義者である。

イ インドで「死を待つ人の家」を設立するなど、弱者の救済に献身したのは、カトリックの修道女マザー・テレサである。ガンディーはイギリスによる植民地支配に対して非暴力の抵抗運動を展開したインド独立の父である。

ウ アメリカにおける人種差別に対して公民権運動を展開したのは、キング牧師である。ラッセルは哲学者・数学者で、科学者の社会的責任を問うて核兵器の廃絶を目指す「ラッセル＝アインシュタイン宣言」を発表したことで知られる。

問3 正解は①。

ア 正文。欲求の階層秩序を説いたマズローによると、愛情と所属の欲求は5段階の欲求のうち3番目に位置するもので、これを達成することにより、4番目の承認の欲求が生じるとされる。

イ 正文。マズローの欲求理論によると、1～4番目の欲求はいずれも足りないものを埋め合わせることを求める欠乏欲求であり、これらがすべて満たされると、成長欲求とも言い換えられる自己実現の欲求が生じる。

問4 正解は③。

③ 資料文は、1999年にノーベル平和賞を受賞した「国境なき医師団」の記念講演である。資料文では、国境なき医師団が行っているような人道支援が交戦国によって「戦争の道具」として利用されることが批判されており、そうしたことがないよう国際人道法という枠組みを各国が保証するよう求めている。

① 資料文によると、国境なき医師団が行なっているような人道主義的活動は、政治の失敗による非人間的な苦しみを和らげるためのものであって、政治的責任を引き受けるためのものではない。

② 資料文では、人道的活動には、国際人道法という枠組みが必要だとされている。

④ 資料文では、国家によって「紛争の犠牲者へのアクセスを禁じられたり、交戦国に利用されたり」することが、国際人道法の「枠組みが正常に機能していない」こととして批判されている。

問5 正解は④。

④ インド出身の経済学者アマーティア・センの思想が問われている。センは、ロールズが説いていたような単純な再分配を中心とする正義では不十分であるとして、福祉の目標は、各人の生き方の幅(潜在能力/ケイパビリティ)を改善することで、各人が達成できる状態や活動を広げることにあると論じた。

①③ センのいう潜在能力は「生き方の幅」を意味するのであって、「個人の才能」ではない。

② センが考える福祉の目標は、財や所得の豊かさではない。

第2問 源流思想・日本思想分野

問1 正解は①。

① 正文。日本語の「カミ」とは、ヤハウエやアッラーなどの超越的存在ではなく、人

知を超えた威力あるものの総称であった。

- ② 前半の記述は正しい(アマテラスの弟スサノヲは田畑を破壊するなどの狼藉を働いている)が、アマテラスは「造物主」でないし、裁きの神でもない。
- ③ 神が災厄をもたらす存在でもあるという記述は正しいが、そうした神の祟りに対しても、祭祀によって鎮めることができるとされた。
- ④ 神の住む高天原といえども人間の住む世界から隔絶していたわけではなく、ニニギノミコトはアマテラスの命によって葦原中国(地上の世界)を統治するため派遣された(天孫降臨)。

問2 正解は①。

- ① ゴータマ・ブッダは、快楽を求める生き方だけでなく、極端な苦行主義をもしりぞける「中道」を説いた。その具体的修行法が「八正道」であり、そのうち「正業」とは殺生や盗みなどを働かず、正しい行いをするることである。
- ②④ 「正業」の説明が、八正道の一つ「正見」(正しくものを見る)についての説明になっている。
- ③④ 六波羅蜜は中道や八正道を説いたゴータマ・ブッダより後の大乘仏教で確立された修行法である。

問3 正解は②。

- ② 誤文。「宗派間での融和」「他宗に協力を呼びかけた」が誤り。日蓮は、法華経至上主義の立場から、法華経へと帰依しない宗派を邪宗として厳しく批判した。
- ① 正文。日蓮は鎌倉幕府の指導者にも教えを説こうと試み、現実を仏国土へと転換することを目指した。
- ③ 正文。日蓮は、釈迦が修行の末に悟りを開いた人物であるという教えは単なる方便であり、永遠の存在(久遠実成の仏)であると捉える法華経の教えを前提に、末法での救済を説いた。
- ④ 正文。日蓮は、法華経至上主義の立場から、『法華経』のなかに迫害を受けつつも法華経の教えを広めて衆生救済に励む菩薩(法華経の行者)が描かれていることに着目し、自身もそうした立場から精力的に布教し続けた。

問4 正解は④。

- a 本草学を研究し、『大和本草』『養生訓』などを著したのは貝原益軒である。本居宣長は賀茂真淵の弟子に当たる国学者。
- b 大阪の商人たちが出資して設立した学校・懐徳堂の思想家である富永仲基が入る。富

永仲基は、儒学や仏教といった思想が歴史の産物であることを強調し(加上説)、特に大乘仏教が本来のブツダの教えと異質な後代の解釈であるとする大乘非仏説は有名。安藤昌益は神儒仏のいずれをも否定し、万人直耕の世を理想とした思想家。

- c 近世儒学者のなかで原典に直接向き合うことを強調した人々を古学派といい、なかでも古文辞学派を創始したのが荻生徂徠である。政治家としても活躍した新井白石は朱子学者と位置づけられる。

問5 正解は④。

- ア 誤文。ブツダは、ウパニシャッド哲学で想定されていたような不変の自己(我、アートルマン)という概念を否定する(諸法無我)。
- イ 正文。プラトンによれば、人間の魂は理性・気概・欲望という三部分からなり、理性が他の部分を支配すべきだとされる。逆に欲望が他の部分を支配してしまうときに、不正が起こる。
- ウ 正文。朱子は理気二元論の立場に立ち、心のなかには善を志向する理がそなわっているとしつつも、肉体を支配する気の原理によって私欲へと流されてしまうと論じた。

問6 正解は③。

- ③ 三宅雪嶺は雑誌『日本人』を発刊したジャーナリストで、明治政府が進めていた極端な欧化主義政策を批判し、日本の伝統を尊重する国粹主義を提唱した。
- ① 明治・大正期の日本の哲学界を指導した井上哲次郎についての記述。
- ② 大正・昭和に活躍し、『三太郎の日記』などを著した哲学者・阿部次郎についての記述。
- ④ 著書『日本改造法案大綱』によって二・二六事件の理論的指導者と目され、処刑された北一輝についての記述。

問7 正解は②。

- ② 先人たちがそれぞれ人々を教え導いた方法については多様な考え方がみられるが、その模索の背景には、「よりよき生や社会の実現を目指す強い信念」(最終段落)があったとされている。
- ① 近世には「教える者自身に徳を求める傾向が強まった」(第3段落)とあるが、それでも先人たちは実際に徳を身に付けて初めて教えを説いたのではなく、不徳の自覚を持っていた石田梅岩やその弟子・手島堵庵らが道を説き、朋友の獲得を目指したとされている。
- ③ 「自らの立場や役割を省みることなく」が正しくない。最終段落には、先人たちが「自己のあり方やその役割を模索」したとある。

- ④ 先人たちが「神仏や師に全面的に依拠しよう」としたという点が正しくない。たとえば西村茂樹は特定の一人を師として信奉することを批判したとされている。

第3問 源流思想・西洋近現代思想分野

問1 正解は①。

- ① パウロは自身の体験から、人間がつねに悪へと流されてしまう存在であると考え、ユダヤ教において律法を遵守するという行いによる救済が説かれていたのに対し、人類の罪(=原罪)を担ったイエス(贖罪)に対する信仰のみが救いへの道だと説いた。
- ② 律法の遵守ではなく、悔い改めと信仰こそが救いへの道であるとされる。
- ③ 人類は原罪を背負っていると考えているので、「罪のない本来の自己」という表現は正しくない。
- ④ パウロは、神によって義とされるのは善行によってではなく、ただ信仰のみによると考えている。

問2 正解は④。

- ④ ロックは、人々の自然権を確実なものとするために国家が必要だとされるが、権力の濫用を防ぐためには、国王のもつ執行権および同盟権(外交権)と、議会のもつ立法権とのあいだで、権力分立が不可欠であると考えた。
- ① ルソーの社会契約説についての記述である。
- ② デューイの道具主義(プラグマティズム)についての記述である。
- ③ アダム・スミスの理論についての記述である。

問3 正解は④。

- ア 誤文。コペルニクスではなく、イギリス経験論の祖であるベーコンについての記述となっている。
- イ 正文。ニュートンは、万有引力の法則を発見したことによって機械論的な自然観を確立した。
- ウ 正文。20世紀アメリカの生物学者カーソンは、著書『沈黙の春』において、農薬などに含まれる化学物質 DDT が生態系を破壊しているとして警鐘を鳴らし、環境問題への先駆となった。

問4 正解は④。

- ④ ヨーヨーなどの一人で操作する道具については、飽きがこないようにするためには

競争が不可欠であるとして、一人で遊ぶときであっても、潜在的な競争相手や観客が想定されると論じられている。

- ① まず資料文の冒頭に、遊びが個人的娯楽ではないことが述べられている。そして一人で操作する道具については、競争相手や観客がいないとすぐに飽きてしまうとされている。
- ② 一人で遊べる道具でも競争相手や観客が想定されるのは、そうしないと「上達」しないからではなく、飽きてしまうからである。
- ③ 資料文では技の遊びと競争の遊びという対比は行われていない。

問5 正解は②。

- ② イスラーム教における六信(六つの信仰対象)とは、神、預言者、聖典、天使、来世、天命である。聖典のなかで最も重要なのがクルアーンであり、これは単なる内面的な信仰のあり方だけでなく、ムスリム(イスラーム教徒)の生活をも規定している。
- ① 仏教はそれまでのバラモン教が前提してきた身分制度(カースト制)を否定した。
- ③ 古代ギリシアの詩人ホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』は、神々の意志が人間たちの世界に影響を与えるという神話的世界観(ミュトス)によって描かれており、後の自然哲学者たちが自然それ自体をロゴスによって捉えようとしたことと対比される。
- ④ イザヤは旧約聖書に登場する預言者で、イスラエル王国の分裂後に成立したユダ王国で活躍したが、国情の不安定なユダ王国の指導者をたびたび批判した。

問6 正解は③。

- ③ 遊びが不要なものとみなされてきたという点は、リード文2段落目で述べられている。自由や創造性の源泉としての見方は3段落目で、また社会的活動を理解するうえで重要という点は4段落目で述べられている。
- ① 遊びが子どもよりも大人にとって重要という指摘はどこにもない。
- ② 20世紀に入って社会の規律が強められたという記述はないし、遊びの重要性に着目した思想家は、シラーやニーチェのように19世紀以前にもいた。
- ④ ホイジンガが「実用的目的から離れた」遊びの意義に着目したとの指摘はあるが、20世紀に「人間の社会的活動」自体が「実用的目的から離れた」といった記述はない。また②と同様、20世紀になってから遊びの重要性が見直されたとの記述は誤っている。

第 4 問 政治・経済総合問題

問 1 正解は④。

リード文の前後の文脈から空欄を判断する問題。

- ア 近代に誕生した国民国家の役割は、「国家からの自由」を重視する「夜警国家」から、「国家による自由」を重視する「福祉国家」への歴史の変遷を経てきた。
- イ 政府の権限拡大に対し、「しかし」と逆接で導かれている内容なので、「人々に対する国家の介入を制約する仕組み」、すなわち**立憲主義**が当てはまる。

問 2 正解は③。

- ア 表現の自由や**財産権**は、自由権に属する。
- イ **生存権**や教育を受ける権利は、社会権に属する。
- ウ 裁判を受ける権利や**国家賠償請求権**は、請求権に属する。

問 3 正解は③。

アメリカの大統領制とイギリスの議院内閣制の違いを問う問題。

- ア アメリカの大統領制は議会と大統領が厳格に権力分立され、大統領に法案提出権もなく、議会への**教書送付**のみである。
- イ 議院内閣制は**不信任決議権**とその対抗措置として解散権、また法案提出権もあり、緩やかな関係である。
- ウ 上記から、アメリカの大統領制はイギリスの議院内閣制に比べて権力分立が**厳格**であると言える。

問 4 正解は④。

- ④ 「**法の支配**」とは「人の支配」に対する語で、国家権力から個人の権利を守るための概念である。人間が定めた「**実定法**」の上位にある規範で、人間の理性により把握できる「**自然法**」の考え方に基づく。
- ① 古代中国の法家思想の考え方に近い。
- ② 「人の支配」の説明。
- ③ ドイツで発達した「**法治主義**」の説明。

問 5 正解は②。

政府が均衡価格よりも低い価格に上限を決めた場合、需要があっても **Q₁** の数量しか供給がなされない。このため、品不足の状態になる。

問6 正解は④。

- ④ Aにおいて、低い方から80%の人が全所得総額の60%を占めている。
- ① 問題文中に、不平等が大きくなるほど、45度線から乖離、と記されているので、Bのほうが格差が大きい。
- ② Bにおいて、所得上位から20%までが全体の所得の60%を占める。
- ③ 同じ割合で所得が増えれば、ローレンツ曲線の形状は変わらず、45度線に近づくことはない。

問7 正解は③。

- ③ 誤文。電力は2016年4月から**一般家庭でも自由化**されている。身近な時事問題。
- ①②④ いずれも正文。

問8 正解は④。

- ④ **国家安全保障会議**は日本版NSC(National Security Council)と呼ばれる。
- ① 1967年成立の「武器輸出三原則」を転換し、「防衛装備移転三原則」が2014年に成立した。
- ② 自衛隊の最高指揮監督権は防衛大臣ではなく**内閣総理大臣**にある。
- ③ 2014年に合憲の閣議決定をした**集団的自衛権**の内容である。

第5問 国際経済

問1 正解は①。

- ア **トレードオフ**とは、二つの事柄が、一方を増やせば一方が減るという関係にあること。リード文では公平性と効率性のバランスをとることが課題とされている。プライマリ・バランスは、基礎的財政収支のこと。
- イ **ベーシック・インカム**とは、すべての人に生活するための一律一定額の所得を公的に保障する制度のこと。ユニバーサル・デザインとは、すべての人が平等に使えるようにデザインすること。

問2 正解は④。

- ④ **フェアトレード**とは、先進諸国が優位な立場を利用せず、正当な価格で取引をすることにより、南北格差をなくそうとする考え方。
- ① **資源ナショナリズム**は、発展途上国が先進国に向けた主張である。
- ② **国連貿易開発会議(UNCTAD)**は、南北問題解決のための国連機関。南南問題ではない。
- ③ 日本のODAは**グラント・エレメント**が低く、貸し付けが多いが、全部ではない。

問 3 正解は①。

石炭比率の大きさから A が中国。よって B はアメリカ。

原子力比率の大きさから D がフランス、よって C が日本。

問 4 正解は①。

- ① フィラデルフィア宣言が社会保障の範囲の拡大と ILO の基本原則になった。
- ② 賦課方式ではなく、積み立て方式の説明である。
- ③ 日本の社会保障で最も大きな割合を占めるのは、年金である。
- ④ 「ゆりかごから墓場まで」のスローガンはイギリスである。

問 5 正解は④。

知識を必要としないデータ読解問題。

- ④ 日本は 3 つの条件すべてに該当する。
- ① 韓国、フランスは公的負担分が OECD の平均以上だが、20 歳未満の人口比率は OECD 平均以下である。
- ② フランスは私的負担分が OECD の平均以下、公的負担分が OECD の平均以上だが、20 歳未満の人口比率は OECD 平均以下である。
- ③ 日本、アメリカ、韓国は私的負担分が OECD の平均以上だが、アメリカの 20 歳未満の人口比率は OECD 平均を上回っている。

第 6 問 労働

問 1 正解は③。

- ③ ドイツは議院内閣制をとるが、形式的な大統領が存在する。最高裁判所裁判官に占める女性の割合は、日本よりは多いがフランス、アメリカよりも少ない。
- ① アメリカのことであるが、女性閣僚の割合は日本に次いで低い。
- ② フランスのことであるが、女性管理職の割合は日本が最低である。
- ④ 日本のことであるが、男性の賃金と比較した女性の賃金は最も低い。

問 2 正解は②。

A—ア 衆議院解散後 30 日以内に、主に新しい内閣総理大臣を指名するための特別会が開かれる。

B—ウ 衆議院の解散中に緊急に必要なとき開かれるのは参議院の緊急集会である。

C—イ 常会以外に必要ながあれば臨時会も開かれる。

問 3 正解は③。

形式的には差別に当たるが、実質的に差別を解消するための措置をポジティブ・アクション(アファーマティブ・アクション)という。

- ③ ポジティブ・アクションの例として正しい。
- ①②④ すべて形式的な平等の例である。

問 4 正解は③。

A—イ 2004 年、「労働者派遣法」の改正法施行により原則自由化され、製造業にも適用されている。

B—ア 「パートタイム労働法」は、勤務形態の弾力化で家事と職業を両立させたい女性労働者を主体としている。

C—ウ 「高年齢者雇用安定法」は、急速な高齢化の進行に対応するため、改正が進められている。

問 5 正解は②。

- ② 参議院の被選挙権年齢は 30 歳、衆議院の被選挙権年齢は 25 歳であり、これに違憲判断は出ていない。
- ① 衆議院の一票の格差には 2 回違憲判決が出ている。1972 年の総選挙では格差が 4.99 倍となり、1976 年に違憲判決が出た。
- ③ 婚外子法定相続分については、2013 年に最高裁の違憲判決が下り、同年に民法が改正された。
- ④ 婚外子国籍取得については、2008 年に最高裁の違憲判決が下り、同年に国籍法が改正された。